

Ⅲ 近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標

1 基本的考え方

今後、本市の多様な生産者の経営の安定を図り、地域の基幹産業としての酪農及び肉用牛生産の生産基盤の維持・強化につなげるため、実現可能な経営類型を想定し、10年先の経営指標として設定します。

2 経営指標の設定

酪農及び肉用牛生産の経営の類型を経営規模や生産体系、畜種などに着目して区分し、設定します。

3 指標の項目

指標については、経営類型ごとに次のとおり設定します。

(1) 経営概要：経営形態、飼養頭数、飼養方式、飼養管理の外部化、飼料の給与方式、放牧利用

(2) 生産性指標

ア 牛：1頭当たり搾乳量、更新産次、分娩間隔、初産月齢、出荷月齢、出荷時体重等

イ 飼料：作付体系、単収、作付延べ面積、飼料生産の外部化、購入飼料、飼料自給率、粗飼料給与率、経営内堆肥利用割合等

ウ 人：生産コスト、労働時間、粗収入、経営費、農業所得、1人当たり所得

4 酪農経営方式

単一経営

方式名 (特徴となる 取組の概要)	経営概要					生産性指標																	
	経営 形態	飼養形態				牛		飼料						人									
		経産牛 頭数	飼養 方式	外部化	給与 方式	放牧 利用 (放牧地 面積)	経産牛 1頭あたり 乳量	更新 産次	作付体系 及び単収	作付 延べ 面積 ※放牧利 用を含む	外部化 (種類)	購入国産 飼料 (種類)	飼料自給 率(国産 飼料)	粗飼料 給与率	経営内 堆肥 利用割合	生産コスト		労働		経営			
																生乳1kg当 たり費用合計 (現状平均規 模との比較)	経産牛1 頭あたり 飼養労働 時間	総労働時間 (主たる従 事者の労働 時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる 従事者 1人当 たり所 得	
I つなぎ飼 い(スタンション) 60頭	家族	頭	50	S T	ヘルパ ^o ー 公共牧場 分離給与 舎飼	(ha)	kg	産次	kg	ha		%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円		
					8,939	3.0	チモシー 主体 トモロコシ	36	コントラクター	ラップ サイレーン ^o		58	76	2	80.85	96.6	4,800	5,317	4,336	981	363		
II つなぎ飼 い(スタンション) +フリーパ ^o ーン 120頭	家族	頭	120	S T	ヘルパ ^o ー 公共牧場 TMR 舎飼		9,185	3.2	チモシー 主体 トモロコシ	70	コントラクター				88.60	31.7	3,800	11,052	9,765	1,287	644		
III フリーストール 80頭	家族	頭	80	F S	ヘルパ ^o ー 公共牧場 TMR 舎飼		10,780	3.0	チモシー 主体 トモロコシ	47	コントラクター	輸入乾草			92.73	80.7	6,120	8,888	7,078	1,810	603		
IV フリーストール 150頭 法人経営	家族 法人	頭	150	F S	ヘルパ ^o ー 公共牧場 TMR 舎飼		10,721	3.4	チモシー 主体 トモロコシ	99	コントラクター	輸入乾草			89.02	42.8	6,480	16,287	14,316	1,971	657		

注：飼料の作付体系は、地域条件や利用方法に合わせ草種（チモシー、オーチャードグラス、ペレニアルライグラスなど）を適切に組み合わせる。
 法人経営の構成員家族（主たる従事者を含む。）の報酬・給与等（社会保険料等を除く。）は、農業所得に含まれる。
 法人経営の生乳1kgあたり費用合計は構成員家族（主たる従事者を含む。）の報酬・給与等を含む。

5 肉用牛経営方式

(1) 肉専用種繁殖経営

方式名 (特徴となる 取組の概要)	経営概要					生産性指標																			
	経営 形態	飼養形態					牛				飼料						人								
		飼養 頭数	飼養 方式	外部化	給与 方式	放牧 利用 (放牧地 面積)	分娩 間隔	初産 月齢	出荷 月齢	出荷時 体重	作付体 系及び 単収	作付延 べ面積 ※放牧 利用を 含む	外部化 (種類)	購入 国産 飼料 (種類)	飼料 自給率 (国産 飼料)	粗飼料 給与率	経営内 堆肥 利用 割合	生産コスト		労働		経営			
																		子牛1頭当 たり費用合計 (現状平均規 模との比較)	子牛1頭 当たり 飼養労働 時間	総労働時間 (主たる 従事者の 労働時間)	粗収入	経営費	農業所 得	主たる 従事者1 人当たり 所得	
I 肉専用種 繁殖経営 (複合)	家族 経営 複合	繁殖50 素牛20	牛房	-	分離	(ha)	ヶ月	ヶ月	ヶ月	kg	kg	ha	乾草 ^{コー} ラップサ イレージ	%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円		
			群飼	給与	-																			16.0	24.0
II 肉専用種 繁殖経営 (複合)	家族 経営 複合	繁殖108 素牛70	牛房	-	分離	(ha)	ヶ月	ヶ月	ヶ月	kg	kg	ha	乾草 ^{コー} ラップサ イレージ	%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円		
			群飼	給与	-																			18.5	24.0

(2) 肉専用種肥育経営

方式名 (特徴となる 取組の概要)	経営概要					生産性指標																		
	経営 形態	飼養形態					牛				飼料						人							
		飼養 頭数 (頭)	飼養 方式	給与 方式	肥育開始 時月齢 (ヶ月)	出荷 月齢 (ヶ月)	肥育 期間 (ヶ月)	出荷時 体重 (kg)	1日当 たり 増体量 (kg)	作付体 系及び 単収 (kg)	作付延 べ面積 ※放牧 利用を 含む (ha)	外部化 (種類)	購入 国産 飼料 (種類)	飼料 自給率 (国産 飼料)	粗飼料 給与率	経営内 堆肥 利用 割合	生産コスト		労働		経営			
																	肥育牛1頭当 たり費用合計 (現状平均規 模との比較)	牛1頭 当たり 飼養労働 時間	総労働時間 (主たる 従事者の 労働時間)	粗収入	経営費	農業所 得	主たる 従事者1 人当 たり 所得	
III 肉専用種 一貫経営 (複合)	家族 経営 複合	繁殖130 素牛60 肥育20	牛房	分離	去勢 9.2 雌	去勢 28.0 雌	去勢 18.8 雌	去勢 588 雌	去勢 0.7 雌	kg	ha	-	乾草 稲わら	%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円	
			群飼	給与																				9.4
IV 肉専用種 肥育経営 (複合)	家族 経営 複合	肥育30	牛房	分離	去勢 10.0 雌	去勢 28.7 雌	去勢 18.7 雌	去勢 484 雌	去勢 0.6 雌	kg	ha	-	-	%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円	
			群飼	給与																				10.0

(3) 交雑種肥育経営

方式名 (特徴となる取組の概要)	経営概要			生産性指標																												
	経営形態	飼養形態			牛					飼料						人																
		飼養頭数(頭)	飼養方式	給与方式	肥育開始時月齢(ヶ月)	出荷月齢(ヶ月)	肥育期間(ヶ月)	出荷時体重(kg)	1日当たり増体量(kg)	作付体系及び単収(kg)	作付延べ面積※放牧利用を含む(ha)	外部化(種類)	購入国産飼料(種類)	飼料自給率(国産飼料)	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	生産コスト		労働		経営											
																	肥育牛1頭当たり費用合計(現状平均規模との比較)	牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間(主たる従事者の労働時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得									
V 交雑種育成経営(専業)	家族経営専業	育成110		交雑♀	交雑♀ 7.9	交雑 17.0	交雑 717	交雑 0.927	kg	イネ科主体 3670	1.0	-	乾草ロール ラップサイレージ	%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円									
			牛房						分離																							
			群飼						給与																							
													22.7	49.1	10	468,364	34.5	3,800	5,850	5,152	698	349										